

アネキシンA5の多型は日本人の習慣流産に関連する

(*Mol Hum Reprod*, 17, 447-452, 2011)

アネキシンA5は胎盤性抗凝固因子である。243人の日本人習慣流産女性（3回以上）と、119人の出産既往のあるコントロール女性とで、アネキシンA5 遺伝子のプロモーター領域の6つの多型を検討した。6つとも低頻度アレルが患者群で有意に頻度が高く、中でもSNP5が最も有意差があった ($P=0.002$)。西洋人ではM2ハプロタイプ (SNP1-4のすべてが低頻度アレルという組み合わせ) が患者群で頻度が高いと言われている。日本人では、SNP1-6のすべてが低頻度アレルのもの頻度は高かったが ($P=0.025$)、SNP1-4,6 が高頻度アレルで、SNP5のみ低頻度アレルという組み合わせの頻度も患者群で有意に頻度が高く ($P=0.036$)、日本人ではSNP5 がリスクを決定している可能性があると思われた。これらの結果から、アネキシンA5 遺伝子のプロモーター領域の多型は西洋人でも日本人でも習慣流産に関連することが確認された。

